

令和4（2022）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅢ (SeminarⅢ) 2025031-060					担当教員	生島 義英 (イクシマ ヨシヒデ)		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	2	配当年次	3年次	開講期	通年
科目特性	地域志向科目／協同学習型 AL／課題解決型 AL								

① 授業のねらい・概要

「長岡市撰田屋の魅力高め、観光客を増やそう。」をテーマに掲げ、長岡市の地域活性化策を研究する。

本ゼミナールでは「歴史ある醸造のまち」長岡市撰田屋地区に焦点を絞り、どうすれば観光客を増加させることができるのかを経営学をはじめとする様々な側面から研究する。

撰田屋地区の歴史・今までの撰田屋地区における地域活性化策の取り組みなどを調べるとともに、現地調査・アンケート調査を実施し、様々な視点から撰田屋地区の観光地としての強みと弱み、機会と脅威を SWOT 分析などで戦略を立てるとともに、アンケートなどで収集したデータを統計処理することにより、魅力を高めるために必要な改善すべき課題を明らかにする。

分析した結果を踏まえ、撰田屋地区の活性化に対する具体的な戦略を構築し、地域活性化策を立案し、具体的な実行計画を策定する。

これらの研究を進めるにあたり、必要なマーケティングや課題解決などをはじめとする経営学の手法、統計学の手法、まちづくりの手法、ITの積極的活用、エリアマネジメント手法などについて自発的かつ能動的な学習をすることとなる。

② ディプロマ・ポリシーとの関連

地域の課題に取り組むことにより、地域社会に貢献する姿勢を育成する。

地域研究を推し進めるため、専門的知識・技能を活用する能力を高め、研究を推進する。

地域の住民や連携する組織と相互コミュニケーションを図る機会が多く設けられるため、コミュニケーション能力の向上が図られる。

問題解決のため、仮説を立てそのための情報収集を行い、データの分析・解析を行うため情報収集能力と分析力が高められる。

③ 授業の進め方・指示事項

共通の目的・目標を明確に示したうえでゼミナール内をプロジェクトチーム編成し、それぞれのチームに対しミッションを与え、そのミッションを達成することを目標に活動する。

チーム間の情報共有化を図るため、定例会を設定しゼミナールメンバー全員が、各チームの取り組み内容や進捗状況を把握できる体制を確立する。

④ 関連科目・履修しておくべき科目

経営学関連／マーケティング関連科目、統計学関連科目、コンピュータ関連科目など

⑤ 評価 A に対応する具体的な学習到達目標の目安

(i) 対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程を把握することができる (ii) 対象となる地域の現状と課題，解決方法を検討することができる。
⑥ テキスト（教科書）
必要に応じてその都度指示する。
⑦ 参考図書・指定図書
必要に応じてその都度指示する。

⑧ ルーブリック					
評価項目	評価基準				
	S	A	B	C	D
	到達目標を越えたレベルを達成している	到達目標を達成している	到達目標達成にはやや努力を要する	到達目標達成には努力を要する	到達目標達成には相当の努力を要する
(i) 対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程の知識	対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程を把握ことができ、授業内容を超えた学修成果を示している。	独力で対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程を把握することができる。	資料などを参照し、対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程を把握することができる。	教員等の支援を受けて、対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程を把握することができる。	対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程を把握することができない。
(ii) 対象となる地域の現状と課題，解決方法を検討する知識	対象となる地域の現状と課題，解決方法を検討ことができ、授業内容を超えた学修成果を示している。	独力で対象となる地域の現状と課題，解決方法を検討することができる。	資料などを参照し、対象となる地域の現状と課題，解決方法を検討することができる。	教員等の支援を受けて、対象となる地域の現状と課題，解決方法を検討することができる。	対象となる地域の現状と課題，解決方法を検討することができない。

⑨ 学習の到達目標（評価項目）とその評価の方法、フィードバックの方法								
学習到達目標（評価項目）	試験	小テスト	課題	レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			30%		50%	20%		100%
(i) 対象となる地域の歴史的経緯や発展の過程の知識			15%		25%	10%		50%
(ii) 対象となる地域の現状と課題，解決方法を検討する知識			15%		25%	10%		50%

フィードバックの方法	ゼミナール定例会において、取組内容を発表することによりチームごとの進捗状況を確認し、方向性・取組み内容の指導を行う。
------------	--

⑩ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
より実践的で具体的な解決策が提案できるように指導していきたい。

⑪ 授業計画と学習課題			
回数	授業の内容	授業外の学習課題と時間（分） （※特別な持参物）	
1	イントロダクション	配布資料の復習	60分
2	摂田屋地区の研究① 各チーム取組内容の提示	課題の取組みとワークの復習 チーム課題への取組	180分
3	摂田屋地区の研究② チーム課題の研究	チーム課題への取組	180分
4	摂田屋地区の研究③ チーム課題の研究	チーム課題への取組	180分
5	摂田屋地区の研究④ チーム課題の研究	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
6	摂田屋地区の研究⑤ チーム課題の進捗報告	チーム課題への取組	180分
7	摂田屋地区の研究⑥ チーム課題の研究	チーム課題への取組	180分
8	摂田屋地区の研究⑦ チーム課題の研究	チーム課題への取組	180分
9	摂田屋地区の研究⑧ チーム課題の研究	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
10	摂田屋地区の研究⑨ チーム課題の進捗報告	チーム課題への取組	180分
11	摂田屋地区の研究⑩ チーム課題の研究	チーム課題への取組	180分
12	摂田屋地区の研究⑪ チーム課題の研究	チーム課題への取組	180分
13	摂田屋地区の研究⑫ チーム課題の研究	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
14	摂田屋地区の研究⑬ チーム課題の進捗報告	チーム課題への取組	180分

15	摂田屋地区の研究⑭ チーム課題プレゼンの準備	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
16	摂田屋地区の研究⑮ チーム課題プレゼンの準備	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
17	中間レビュー	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
18	摂田屋地区の研究⑯ チーム課題の研究	チーム課題への取組 進捗報告書作成	180分
19	摂田屋地区の研究⑰ チーム課題の研究	チーム課題への取組	180分
20	摂田屋地区の研究⑱ チーム課題の研究	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
21	摂田屋地区の研究⑲ チーム課題の研究	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
22	摂田屋地区の研究⑳ 発表会プレゼンの準備	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
23	摂田屋地区の研究㉑ 発表会プレゼンの準備	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
24	摂田屋地区の研究㉒ チーム課題プレゼンの準備	チーム課題への取組 プレゼン資料作成	180分
25	摂田屋地区の研究㉓ チーム課題のとりまとめ	チーム課題への取組 報告書作成	180分
26	摂田屋地区の研究㉔ チーム課題のとりまとめ	チーム課題への取組 報告書作成	180分
27	摂田屋地区の研究㉕ チーム課題のとりまとめ	チーム課題への取組 報告書作成	180分
28	摂田屋地区の研究㉖ チーム課題のとりまとめ	チーム課題への取組 報告書作成	180分
29	摂田屋地区の研究㉗ チーム課題のとりまとめ	チーム課題への取組 報告書作成	180分
30	摂田屋地区の研究㉘ チーム課題の成果報告	継続案件の後輩へ引き継ぎ書面作成	180分

⑫ アクティブラーニングについて			
地域志向科目／協同学習型 AL／課題解決型 AL を実施する。 具体的には、チーム単位で対象地域に出向き、調査研究を行うことにより、協同型学習を推し進めるとともに、地域の課題を見出し、その解決策を具体的に思考することにより課題解決能力を高める。			

※以下は該当者のみ記載する。

⑬ 実務経験のある教員による授業科目
実務経験の概要
昭和 63 年（1988 年）4 月から平成 31 年（2019 年）3 月まで 31 年間民間企業に在籍し、在籍期間中は、情報システム部門においてシステム設計と運用など、物流管理部門において新規仕組みの構築と運用改善・物流教育など、人事労務管理部門において制度設計や法令変更対応、組合との交渉など、総務部門において株主総会・取締役会の事務局運営やコンプライアンスなどの業務に従事した。実務担当者、管理職、グループ企業の取締役の経験など様々なマネジメント業務に携わった。
実務経験と授業科目との関連性
担当者としての実務経験や部門長として管理職経験、役員経験を活かし、実務経験がなく、実務を想像しにくい学生に対して、より実務的に具体的にビジネスの企画・具現化・改善などの一連のプロセスを教授することができる。 現場で発生している問題など具体的な事例をもとに、課題解決策の策定などについて、興味深く説明することができる。